

## 第4回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成22年5月31日(月) 18:30~20:30
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、阿部初子委員、石川建治委員、内田幸雄委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大滝精一委員、大村虔一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、菅井邦明委員、鈴木由美委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、西澤啓文委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、増田聡委員、間庭洋委員、水野紀子委員、宮原育子委員、柳生聡子委員 [27名]
欠席委員	鈴木勇治委員、永井幸夫委員、柳井雅也委員 [3名]
事務局	山内企画調整局長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 新総合計画の全体構成(素案)について (2) 部会の設置について (3) 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について (4) その他 3 閉会
配付資料	1 現総合計画の構成・内容と課題 2 新総合計画の全体構成(素案) 3 部会の設置について(案) 4 審議会日程(案) 5 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について 6 仙台市の主な計画の概要

### 1 開会

大村虔一会長

それでは、ただいまから第4回仙台市総合計画審議会を開催いたします。

最初に、今回の議事録署名委員についてでございます。前回、阿部初子委員にお願いいたしましたので、五十音順で石川委員でございますが、よろしいでしょうか。

石川建治委員

はい。

大村虔一会長

それではよろしく願いいたします。

続きまして議事に入る前に定足数等の確認を行いたいと思います。  
事務局からご報告をお願いします。

梅内総合計画課長

定足数の確認の前に、4月の人事異動などにより新たに事務局職員となった者をご紹介申し上げます。

#### (事務局職員紹介)

定足数でございますが、本日は27名の方がご出席予定でございます。お二人ご都合により少し遅れていらっしゃる事となっております。定足数を満たしていることをご報告します。

続いて、資料の確認をさせていただきます。

お座席に、資料一覧、資料1から資料6、座席表、委員名簿、新総合計画策定作業マップ、それと本日、大草委員からサイエンスデイ開催に関するご紹介の資料をいただいております。その他に、事務局でお預かりしている資料と議事録をファイルにつづったもの、起草委員会資料と議事録をファイルにつづったものを置かせていただいております。ご不足などございませんでしょうか。ございましたらお聞かせください。

事務局からは以上です。

## 2 議事

### (1) 新総合計画の全体構成（素案）について

大村虔一会長

よろしいでしょうか。それでは、議事に入ります。

本日の議事は四つとなっております。

まず、1点目として「新総合計画の全体構成（素案）について」です。

事務局から資料の説明を受ける前に、この間、事務局や宮原副会長、大滝委員長ともご相談しまして、策定作業の進め方に関して若干変更させていただきたいと考え、それに基づいて先日の起草委員会でもご議論いただいておりますので、その点についてお話をさせていただきたいと思います。

前回の審議会までは、基本構想を詰めてから基本計画を審議していくということで、基本構想を中心にその骨組み等につきまして議論を進めてまいりました。しかし、これまでの審議会や起草委員会でも、基本構想がテーマとはいっても、具体的な議論を進めるにあたっては、人口だとか、目標の設定だとか、部門別計画改定との整合など、基本計画レベルの議論も当然出されてきておりました。また、今年度内に新しい計画を策定できるよう答申を行わなければならないという時間的制約もございます。

前回の審議会後にこれらを勘案しまして、今後、基本計画の作業も同時並行で進めることが時期的にも必要であるし、また、双方の内容の整合も図れるし、この審議会でもしばしば課題として出されている市役所の部門別の主要計画の改定に齟齬がなく進めら

れるのではと考えたところでございます。

そこで、副会長や起草委員長とも相談しまして、前回審議会の議論を踏まえて基本構想の起草委員会案を議論していただく前に、総合計画全体の構成や内容の骨子づくりを先に議論することとし、それを基に基本構想・基本計画の構成や内容を具体的に同時並行で詰めていくことにさせていただきました。

そういったことから、事務局に本日の資料２で示されております新総合計画の全体構成（素案）を作成してもらい、一度起草委員会でたたいてもらった上で、本日の審議会に提出をしていただいたところでございます。

この間、ほかで同時並行に進められている庁内での各部門別の計画がどうなっているのか知りたいという委員からのご発言もございましたことから、その方が作業進行上適切なのではないかと判断したところでございます。

それでは、まず事務局から新総合計画の全体構成の説明をお願いします。

#### 梅内総合計画課長

では、資料１と資料２に従いまして、総合計画の全体構成についてご説明したいと思います。

資料１をご覧ください。現在基本構想はこういう薄い冊子になってございますけれども、これと現在の基本計画 21 プランと呼ばれている基本計画についてでございますが、基本構想は策定の趣旨、都市像、施策の基本方向、基本構想の推進という四つの構成に、基本計画については六つの構成になってございます。このうち基本構想の「３ 施策の基本方向」という点と基本計画の「第３章 施策展開の基本方向」と「第４章 分野別計画」についてです。従前、基本構想と基本計画が時期を別にして定められておりました。基本構想を前年に議決して、その議決に基づいて基本計画をつくるという作業をしてまいりました関係で、各々施策の基本方向性というものを中に含んでおりますので、この両方を読んだときに重複感があるなどの指摘があったところでございます。また、時代背景の変更や市民協働のその後の進展などもみまして、この点について前回よりも書き込んでいきたいと考えているところでございます。

そのような考えに基づきまして、全体構成の素案として考えましたものが資料２でございます。

資料２をご覧ください。１ページ目、基本的な考え方といたしましてこれまでの審議会等のご議論を反映しまして市民の皆様にわかりやすい表現・構成・内容となるよう努める、仙台らしさを基調として未来に希望をつなぐ視点を重視する、「市民の力」を重視する、四つの都市像の方向性は踏襲する、その上に上位の目標を設定する、先ほど申し上げました基本構想・基本計画の重複感を整理するとともに、分野（組織）横断的な視点を盛り込むといった考え方を取りたいと思っているところでございます。

下の枠組み・スケジュールでございますが、今回基本計画につきましても議決事項となっておりますことから審議会の答申を踏まえまして、来年２月から開催されます第１回定例会に基本構想と基本計画を同時に提案する予定でございます。３年単位でつくります実施計画につきましましては、この議決を踏まえまして年度末に策定していく予定で進

めているところでございます。

2 ページをご覧ください。これまで起草委員会で中心にご議論いただいております基本構想の構成と骨子についての案でございます。これまでの議論を踏まえまして最初に「仙台の未来へ」ということで、人口減少や成熟社会、地球環境時代などを踏まえ、仙台の「資源」と「市民の力」で将来の希望をつなぐような記述をしてまいりたいと考えてございます。2 番目は都市像でございます。都市像は現行の四つの都市像を基本的な方向としては踏襲いたしまして、それを統合した上位の目標を設定したいと考えております。3 番目、行動する市民力を包含いたしました「仙台の市民力」ということを今回はより強く表に出したいと思っているところでございます。そして総合計画全体の推進に向けた基本的な考え方を示したいと考えてございます。

そういった考えに基づきまして下の段「仙台の未来へ」というところで現在の時代環境を的確に受け止め、仙台の資源、市民の力を生かして将来目標の実現を図ってまいりたいと考えてございます。

3 ページをご覧ください。都市像でございます。下の段に4 つの都市像これまでありました、学びの都、共生の都、環境といいいますか潤いの都、中枢都市、活力の都という四つの都市像を基本的に踏襲するというところでございまして、その上位理念を設定することにしてございます。現在のところ案として「ひとが輝き 暮らし続けたい 杜の都」ということでお示ししてございます。これらの都市像につきましては、これからのご議論に従いまして、文言等の整理を進めて完成させてまいりたいと考えているところでございます。

4 ページをご覧ください。「仙台の市民力」でございます。奥山市長も「行動する市民力」を大事に市政を進めてまいりたいということを強調しておりますけれども、これまでの市民協働の取組に加えまして、「市民力を育む仕組み」でありますとか、従来の市民協働にとどまらない新たな枠組みについて検討が必要だとのご意見をいただいているところでございます。こういうことにつきまして基本構想・基本計画の中でしっかりと書き込んでいきたいと考えているところでございます。

4 番「推進に向けて」ということで総合計画全体の推進にあたっての基本的な考え方を示したいと考えているところでございます。

5 ページをご覧ください。今回新たにお示しすることになりました基本計画の構成と骨子の案でございます。計画の基本的な考え方、フレーム、分野別計画、区別計画、基本計画の推進といった項目を構成要素として考えているところでございます。

1 番「計画の基本的考え方」でございますが、基本計画の特色に加えまして、市民の方にわかりやすい「重点政策目標」等を設定することを検討してございます。わかりやすい数値目標等の設定、重点政策とか分野横断的なプロジェクトを設定してまいりたいと考えてございます。そして、これらを踏まえまして仙台の将来像といいいますかグランドデザインについてもお示しできればと考えているところでございます。

6 ページでございます。「計画のフレーム」でございますが、基本計画は 2011 年から 2020 年までの 10 年間を計画期間として考えてまいります。人口フレームでございますが、これまではすべての総合計画におきまして、人口は増加するという設定をしてまいりま

したけれども、厚生労働省の外郭団体であります社会保障人口問題研究所の推計によりますと、仙台市の人口は本年度 103 万 3 千人から 2020 年度には 102 万 2 千人まで約 1 万人の減少という推計がなされておりまして、こういう外部の推計もありますことから、私どもの人口フレームにおきまして、一定のこれまでの右肩上がりではなくて、横ばいないしは若干の人口減少が発生するのではないかと考えているところでございます。こういった点からしましても、やはり今回の計画におきましては、今までの施策の体系と視点を変えて取り組まなければならないと思っているところでございます。この人口ソースに加えまして、超高齢化社会といいますか高齢者人口が圧倒的に増えてまいりますので、そういったところで市のサービスのあり方ですとか、都市構造のあるべき姿が変わってくると考えてございますので、この点につきましても現在庁内で議論をしているところでございます。

3 番「分野別計画」でございます。上記のようなフレームを踏まえまして、わかりやすさとバランスを考慮いたしまして、二つの政策分野を設定してはどうかと考えているところでございます。一つが市民の生活に密着しました暮らしに関する分野でございます。市民一人ひとりの「暮らし」でありますとか、生活の場であります「地域」に着目して、政策を体系づけたいと考えているところでございます。二つ目は都市の魅力に関する分野でございます。環境、都市交通、その他都市機能、産業経済、都市の魅力づくりといったことを体系化してまいりたいと考えております。ただ、このような二つの体系分けにつきましては、両方の分野にまたがる領域でありますとか、また、両方の視点で別の方の分野を見なければいけないだろうというご指摘をいただいております。そういった視点を大事にしたいと考えてございます。基本目標、重点政策、また両分野にまたがるパイロットプロジェクト等の設定についても検討を進めているところでございます。

7 ページをご覧ください。「区別計画」でございます。全市計画のほかに各区が主体となりまして、地域住民の皆様の意見やニーズを踏まえながら、区の将来像といいますか将来の方向性について策定してまいりたいと考えてございます。区別計画につきましては区が地域の皆様と原案を策定していくということを想定しておりますので、素案につきましては区で作業を進めまして、審議会に報告をさせ、それをご議論いただいた上で最終的に審議会の答申にこれを入れていく手続を進めてまいりたいと考えているところでございます。

「5．基本計画の推進」でございます。総合計画を推進していくにあたりまして大事になります新たな市民協働のあり方、縦割りの弊害を除去しました庁内横断的な取組、行財政改革の確実な推進、また、計画自体をどのように推進していくかといったことを書き込んでまいりたいと考えてございます。

最後 8 ページにこのような基本構想、基本計画に基づきまして、3 年間のアクションプランであります実施計画を定めてまいりたいと考えているところでございます。財政的裏づけなども含めましてしっかりと検討してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

大村虔一会長

ありがとうございました。ただ今、事務局の方からご説明ございましたけれども、起草委員の皆様で議論なさった時の状況はいかがでございましたでしょうか。どなたか特に何か付け加える点とかございませんか。よろしゅうございますか。

それでは、新総合計画の全体構成に関しましての、質問や意見等をいただきたいと思います。どなたからでも、ご質問でもご意見でも結構でございます。いかがでしょうか。特にございませんか。

では、私の方から少し。私は、本来的に言えば、基本構想というのがある一つの方向を議論して、哲学を含めてははっきりした姿勢をつくり、そして基本計画は数値目標を伴いながらその10年なら10年でどういうふうに、どのくらいまで行こうするかを決めるのが、本来の姿であったと思うんです。しかし、だんだん時代が難しくなっていって、数値目標を簡単につくりにくくなってきている時代でもございますし、それから、最初は基本構想が議会の議決事項で基本計画は議決しないでもいいという形で、数値目標を定めることになっておりましたが、だんだん議会でそれも決めようという話になってまいりますと、どうしても数値目標はつくりにくくなります。従来のものもあまりはっきりした数値目標を掲げていなかったところから、このくらいならば議会で議論してくれるんじゃないかという雰囲気になってきて、そういう枠組みの中でこの基本構想で述べている部分と基本計画で語られるところはかなり似通った部分が出てきたのが多分議論になってきたと私は考えております。そういうことで、今回はそうした方向での仙台の将来にとっての基本構想、基本計画というのをつなげて考えていくというスタイルでやろうということ、いろいろ新しい試みの部分もあるということでございます。

それから部門別の計画について、従来は国の役所が余り変わらないので固定した縦の仕事の仕組みがはっきりしておりましたが、だんだんそれではうまくいなくなって、新政権から少し複雑になってきております。そういう新しい枠組みが問われているような中でどういう部門別にするのかということのも、本当は現代の最も大きな問題であり、特に地方自治体から物事を発想していこうとすると、市側からこういう部門で構成して考えるほうがいいのではないかという提案もありうべしと考えています。

もう一つ、区別計画なのですが、従来の基本計画にも付いているんですが、あまり区民の意見が反映されているということではなくて、全体の基本計画を区別に落とすところこんな感じというふうにまとめられていたわけでありましたが、この市民力云々を言い出しますと、本当はそれぞれの区の区民の、例えば若林区なら若林区民はこう考えていてこういうふうにしたいという思いが反映されたものになってしかるべきでしょう。しかし、多分そう簡単には一朝一夕にはいけないので、そういう方向にどうやって進めていくのかを議論しながら、この計画をつくらなければならないということだろうと思います。

随分いろんな新しい課題をいっぱい背負った枠組み構成なのかなと思っておりますが、でも今の時代の問題を割にうまく引き出して事務局と起草委員会でつくっていただいたんだろうなと私は読みました。起草委員の皆様には大変ご苦労様でございましたというのが私の感想でございます。そろそろご意見出てきませんかでしょうか。

樋口稔夫委員

実は先週、区別計画について、泉区で1回目のお話を受けたのですが、その時にやはり全体のフレームがちょっと皆様わからなくて、現実的に今の場面でしかものを考えていないといいますが、余り先を考えない意見が多かったんです。これを求める場合はなんかこう求め方もいろいろ工夫しないと、区の今の執行部の考えが原案で示されるわけですけども、何かそれでその範囲に収まってしまう感じで余り新しいのが出なかったんです。だから、区別計画の進め方はちょっと検討しないと余り反映できないのかなと、皆様の本当の望む方向に行ってほしいと感じました。

大村虔一会長

ありがとうございました。

まあ初めてというか新しい試みでもないわけだけれども、実質的にその辺をきちんと反映しようという動きをしたのは多分初めてなんだろうと思うんですが、そういう意味ではなかなか難しくこれからしっかり決めなければいけないことがあると思うのですが、事務局はどう考えていらっしゃるでしょうか。

山内企画調整局長

区別計画につきましては、市長もやはり地域特性に応じたきめ細やかな政策を進めていくのが市政運営の基本にあるという認識がございまして、市長就任以降そのきめ細かな地域政策の推進に向けたいろいろな検討を進めております。そういう流れの一環といったしまして、区別計画につきましても、地域特性を充分分析した上で類似の圏域などの傾向をしっかりとらえて、地域住民の皆様のご意見をいただきながらまとめて行きたいと思っております。ただ、策定のスケジュールの関係もございまして、すべてが年度内に策定を進めなければならないという時間的制約もございまして、そういうこともございまして、区別計画につきましては、計画としてどこまで書き込むのかというのと合わせて、まとめた計画をさらに市民協働と進化させていくという過程も含めて、新たな取組を進めていきたいと思っております。ですから、最初の策定段階ではどこまで書き込めるかというのは、ちょっとその辺は微妙なところでございますけれども、そういった思いの中で取り組んでいきたいと思っております。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

大変重要なテーマなので、是非良い形で市民の声や区民の声が入るような仕掛けをトライしていただきたいと思います。

梅内総合計画課長

ただ今のご意見のところで、全体が見えないというご指摘ももっともございまして、区役所からも、区民の皆様にご説明するにあたって全体構成がみえないと、という意見もだされているところでございます。そこで私も企画調整局でも、区の区長や部長た

ちとお話をしたり、ご意見を伺った際にどういうご意見が出たのかというのを聞きながら、全市計画と区の計画を調整しながら進めていこうと思ってございますので、最初は局長が申しあげましたように若干ご意見をお伺いするときに、ちょっと粗が出たりすることがあるのかもしれないのですが、それを私どもも入りまして各区と全市計画の整合を取りながら進めたいと思っておりますので、これからそういう方向で区役所と一緒にがんばってまいりたいと思っております。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

石川建治委員

第3回起草委員会を傍聴させていただきまして、いろんな貴重なご意見を伺うことができました。今の区の計画を策定するということに、どのようにしてその市民の声を拾い上げるのかということについては、実に制約された中で限られているものもあるだろうと思いますが、それぞれ五つの区の持っている歴史とかそれから財産とか人口構成などに違いがあります。例えば同じ区内でも商業地域だったり農村地域だったり住宅地や住宅街であったり、それから同じ住宅街でも団地ができて30年40年迎える地域もあれば、新たに誕生して高齢化率が一桁台のところもあるという様々な違いがありますから、それに加えてこの間の起草委員会でも出ていましたけれども、市民力の「市民」といった場合に子供たちもやはり自律した当事者として位置づけるべきではないかという話もあったものですから、そういったことを考えるとできるだけ市民の声を拾うときに、各年齢層それから各階層のところからできるだけ広く、声を拾えるような仕組みをそれぞれの五つの区の中でそれぞれに応じて、是非工夫してもらえるとありがたいと思っております。

それから今触れました市民力について、自律した当事者というイメージは何となくわかるのですが、この間の起草委員会を傍聴していても、その市民力といった場合に、もう少し具体的なイメージが描けるようなものになっていかないとなかなかわかりにくいという気はします。これまでの様にいわばその行政サービスを受けられる市民という立場から、行政と一緒に何かを始めようという市民に変化してきて、市民協働のまちづくりになってきて、次に第三段階的に今回の自律した当事者という話になってきたので、その辺のところをもう少しできれば起草委員会のメンバーの方々に、その辺のイメージができるものをもう少しこの審議会の中でお示しいただければありがたいと感じます。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

今のお話の中で、自律した当事者というのはいろんな場面でいろんな事例が出てきていると思うので、それをしっかり把握してそうしたものがどういう形でさらに進められるか、そのためにはお役所はどうしなくてはいけないのか、といったあたりを含めて議



論しないといけないと思っております。

どうもありがとうございました。

ほかにいかがでございましょうか。どうぞ。

柳生聡子委員

今のお話とも関連するんですけれども、やはりあの市民力、市民の力というのが今回の基本構想や基本計画の一つの目玉になってくると思いますので、やはりその第三の価値観みたいなものをきちんと示す必要があると思います。突然市民側から市民力がこれから問われますとうたわれても、どうすればいいんだろうという感じでプレッシャーに思う方もいますし、まあプラスに考える方もそれぞれだと思うので、こういったものをこの基本構想では目指していくのかをきちんと表現した方がいいのではないかと思います。

それと関連してですけれども、基本構想の構成と骨子について、現総合計画の構成と比較しますと、すごくシンプルであいまいだった施策の基本方向というものがカットされて目次が減ったという部分と、仙台の市民力というものを一つ項目を立てたというのが示されていますけれども、この1に「仙台の未来へ」は始めにという感じでイントロ的なものだと思うんです。2番目が「将来の都市の姿（都市像）」で、3番目に「仙台の市民力」、4番目に「推進に向けて」とあるんですけれども、やはり目玉の市民力を例えばもうちょっと上の項目に上げるとか、あるいは都市像の中の上位理念に市民の力を入れ込むとか、何かもうちょっとインパクトのある形で示した方がわかりやすいのかなと思いました。このままですと3番目にちょっと埋没してしまって、その特徴が示されにくいのかなという気がしました。

もう一点なんですけれども、その市民力をはぐくむというところも記載した方がいいと起草委員会の議事録を拝見してありましたけれども、そういった部分も基本構想の推進に向けての部分ですとか、基本計画の中にも市民力についてこういった枠組みで今後はぐくんでいくのかという部分も示した方がいいのではないかと思います。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

どうぞ。

山内企画調整局長

先ほど、市民力の関連のお話を何人かの委員の皆様からいただきました。市民力につきましては、今回の議論におきまして、行動する市民力実施すべきという観点が共通認識になりつつあるように事務局で受け止めております。ただ、基本構想に一つの項目を立てて記述する場合には、基本構想の推進部分とか基本計画の中の構成全体との整理が非常に重要になってきます。なぜかといいますと、現在の枠組みでは基本構想の推進として市民主体の都市経営、創造的な都市経営、そして計画的推進と、この三つの枠組みでまとめていて、基本計画の都市経営の中でもそれを受けた形にまとめてございます。

それで市民力という部分を重視する場合には、その市民協働の仕組みとかあるいは今ご指摘がございましたその第三の価値観を示すべきという、この辺を具体的にどういうふうにしていくかが重要になってきます。ですからその辺の大前提につきましては、起草委員会でも小野田委員などからご指摘もいろいろいただいております、そういうことも踏まえて具体的に進めていく必要があるんですけども、その際には構成全体にもかかわる話でございますので、推進という部分で何を拾っていくか、ただそれと市民力では基本構想の中でどういううたい方をして、なおかつ、基本計画の中で具体的にどういう仕組みで担保していくかと、この辺も十分いろいろ審議会の議論を踏まえて具体化していく必要があると思っております。

大村虔一会長

ありがとうございました。いいですか。

柳生聡子委員

はい、ありがとうございます。基本構想の中のその市民力の位置づけといいですか、始めにということでこれから仙台を取り巻く環境がこう変わっていくと、だから市民力が今度重要になってきます、その中で仙台はこういう都市像を目指していきます、そのためにこのように推進していきますという、一つの何かストーリーがあって始めてその読んだ市民がその哲学というものを感じていけるのではないかと思ったんです。なので、その描くストーリーの中にうまく自然に市民力というものを位置づけて発信していけるような基本構想になってほしいと思ったので付け加えさせていただきます。

山内企画調整局長

その辺も、当初の段階では市民力は上に位置づけて検討したこともございます。その辺、市民力としてどこまでどの程度書ききれなのか、市民力という項目を起こして本当に耐えうるのかという部分の議論も庁内的にはございまして、その辺も踏まえまして三つ目の要素に入れて拾っていますけれども、今のご指摘はごもっともなところでございまして、そういうストーリー性としてどういう構成にすればいいのかというのと、その際、本当に具体的にそういったものを拾えるのかという両方の次元で整理していくのかと思っております。

大村虔一会長

今の点に関して、僕は「市民力」と「推進に向けて」というのを議論するときにペアで議論していただきたいと思います。いつも「推進に向けて」には書かれているんだけど、その精神論的なものや姿勢が非常に観念的に書かれているだけで、本当にどういうプログラムでどういう実現のシステムをつくっていくか辺りまでなかなか切り込んでいない気がするんですね。そういう意味で市民力の話をするときには、その市民力というのを高めていくためにどうやっていくのかと合わせてご議論をいただきながら整理すると、もう少し面白くなるのかなと思っています。いつもいろんな計画で書かれては

いるんだけど、ご無理ごもっともみたいには書かれているけれども、どう行動していいかわからないという感じでこう見てきたので、今回は是非その辺を突破してみたいと思っています。よろしくお願いいたします。

ほかに、はい、どうぞ。

岡本あき子委員

今の意見に関してなのですが、私も基本的に考え方は柳生委員に賛成で、多分項目としてはこの四項目、どれも大事でどれも必要ですし、それに対しては異論はないんですけども、まとめ上げてお伝えするときに、やはり今回の目的はこれを訴えているんだということがストレートに最初に伝わると、やはりあの見た方々、多分市の職員の方々はこういう流れをきちんとわかっていらっしゃるので、こういう前提があってこれを目指すためにこれが必要で、その具体的な推進のためにこういう仕組みが必要だというのはわかるんですけど、今回は特に市民の皆様を巻き込んで一緒にまちをつくっていくことを目指そうとしていると私は受け止めているので、そういう意味で考えると、都市像の目指す姿と一緒にやっぱり市民の力が必要なんだというのをストレートに最初にうたっても、ある意味今の時代に合っているんじゃないかと思っています。この基本構想と先ほど大村会長の方からお話がありました基本計画、やはり 21 世紀中葉を見据えたときに本当に責任が持てるのかと言われると、私たちもうきっと 2、3 年後の動きもよくわからない時代になっている中で、基本構想と基本計画、おおむねやはり 10 年ということでほぼ見据えた時期も同じでかまわないんじゃないのかと思って、基本構想と基本計画を同時に進めていくという形では、私の立場からも非常にそれは実感持って議論ができるんじゃないかと思って賛同いたします。

後もう一つ、将来の都市の姿で 4 つの都市像の上位理念ということで、「ひとが輝き暮らし続けたい 杜の都」というフレーズが案としてあがっています。包括しているのであればいいと思うのですが、必ずしも仙台に暮らしている人だけが対象ではなくて、人口が非常に伸び悩む時代に入らな中で、仙台を訪れてくださる方というのも仙台市の目指すべき姿の中で巻き込んでいかなければならない、観光とかも含めて仙台をあこがれの地だと思ってくれる、仙台がいいまちだと外から見てくださる方々、それから出身が仙台で仙台から離れているけれども仙台のことを思ってくださっている、故郷として思ってくださっている、そういう方々にとっても仙台の都市像というのが表現できるようなフレーズが決まるといいなと、ちょっと具体的にこういう案ではどうですかとは今思っていないんですけども、そういうのも包括したような理念を設定していただけるといいなと思っています。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

少し次々にまいりましょうか。ほかにいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

針生英一委員

私は企業経営をしている立場からこの素案を拝見して思ったことなんですけれども、一つはやはりそのまちの活力の中で重要な要素になる経済についてですが、もう少しその位置づけとか方向性が必要かなと感じました。やはりこれからの10年、20年というのは本当にその今までの日本経済もかなり変わってきていますし、グローバルな環境の中で日本の国内はやはり国力が衰えていくという中で、どうやってその支店経済から仙台発の産業とか企業を生み出す力を育てていくのかというのは、仙台市にとっても税収ということを考えてもかなり重要な要素かなと思っております。例えば、市民活動ということも中に柱として書いてありますけれども、一つはコミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスとか、社会的課題のためのビジネスが事業として成り立つような流れというのも一つ必要だと思ってますし、後はやはり地域経済を支えてきた既存産業の衰退をカバーする新たな雇用の受け皿というか枠組みというか、そういった部分を見ると、今岡本委員から仙台をよく見てくれる側の人という話がありましたけれども、そのチャンスがあるまちとか可能性のあるまちとして、そういういろんなノウハウだとかあるいはビジネスだとかを呼び込めるような、そういうまちづくりというのが一つ戦略的には必要かなと思っています。

後もう一つ、東北の中での仙台の役割というのをもっと戦略的に位置づける必要があると思っておりまして、東北のやはりリーディングシティであることには変わりはないわけですが、やっぱり東北の他の都市との連携とかコラボレーションによって仙台側からやっぱり積極的に仕掛けていくことによって、それぞれのポテンシャルを生かし合ってウィンウィンな関係になるような、東北の中での仙台の位置づけということがもうちょっと出ているといいかなと感じました。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

今の点について事務局から何かありますか。特に最初の点、産業的な問題というのがどの辺でどう取り上げていったら良さそうか。

梅内総合計画課長

はい、ご指摘の点につきましても庁内でもいろんな意見をもらっているところでございます。基本構想に書ける部分もあろうかと思いますが、今の産業の具体的な方向性ということになりますと、基本計画の中で現在経済局と中心に検討しております。今のような広域的な視点の必要性等につきましても、従前の委員会等でもご指摘のあるところでございますので、観光に限らずいろいろな面で仙台の東北の中での役割を意識しながら力を入れてまいりたいと思っております。人口の問題につきましてもやはり就職とか雇用がないとまちの元気低下とか人口の流出につながってまいりますし、仙台の元気がなくなりますと地域の活力が失われるとも思っておりますので、やはり全体を支えていくためにも今のご指摘の点について検討を進めたいと思っております。

大村虔一会長

大滝委員何かこの辺についてご意見ございますか。

大滝精一委員

これは随分、起草委員会の中でもたくさん出ていたと思います。特に地下鉄東西線との間のからみの問題が一つあると思います。それから仙台市そのものの持っている様々なインフラというのがかなり今整備されてきつつあるので、それをベースにしてどうやって東北全体との結びつきを付けたらいいかとかいう議論もあったかと思います。それから、今針生委員からお話があったコミュニティビジネスとかソーシャルビジネスとの関係からすると、むしろそういうほうっておけば人口も減ってきて、どんどん地域の活力とかコミュニティの維持力がなくなっていく中で、どうしたらいいかっていう問題も非常に大事だと私も思っております。

それで特に前回というとちょっと語弊があるかもしれませんが、新産業創造プランといったようなものをつくって、産業の部分を中心に新しいものに組み替えていこうということが当然行われてきていると思うんです。今回もそういうプランをつくるべきかどうかについてはいろいろ議論あると思うんですけれども、今必要とされることの一つはやっぱりその前回つくった新産業創造プランについて、しっかりとそここのところの反省点を振り返った上で次のステップにどこまで行けるかという話、それから特にこの10年間で行われてきたことで、できたことできなかったことがどこなのかということについても、多分相当しっかりとした評価というか振り返りが必要だと私自身思っております。ですからそれも踏まえた上で次の10年なりさらにその先を見ていくというか、そういうことも是非合わせて進めていただければと思っております。

大村虔一会長

はい。ありがとうございます。

大きなテーマだろうと思います。市民という言葉が個人個人の一人一人だけを言うのか、いろいろな企業、業を企てたりしているそういう人たちの集まりとしての市民を見ていくのか、その辺のことが大切だろうと思います。ほかから支店経済といわれているような形で動くだけではなくて、内部に力があってそれで地域を活性化していくような活動をどうやってつくっていくかという話が多分起きてくるんだろうと思いますが、その辺もう少し工夫をしていきましょう。

ほかにいかがでございましょうか。どうぞ。

菊地昭一委員

「基本計画の推進」のところの「総合計画の推進部分の各論」というところにあるのが、一つ、先ほど言った市民力もかかわってくる「新たな市民協働のあり方」と、「庁内横断的取り組み」、「行財政改革の推進」とあるんですけれども、先ほど基本的な計画の中には人口が減ることを将来見据えて、高齢化人口が増えるということを見据えて、様々な今後の社会的状況の変化を考えると、恐らく間違いなく様々な予算が多く掛かる時代が当然来る。それをどういう形で抑えるかという中には市民力もあるでしょうし、

市民とのあり方というのも恐らく出てくるんだろうと思うんですけども、ある意味では今回の計画の中で一定の応分の負担を市民の方にしてもらわないとならない時代に入っているというのも、何らかの形でわかりやすくイメージをすべき時代に来ているのかなと。前計画でも正直に言いまして行財政改革はちょっとしか触れていなくて、今回の基本計画にもっと具体的に、ある意味では市民の人にバラ色、総花的ではなくて、市民もちょっとこの辺ががんばってほしいというのを明確にする時代に入ってきているのかなと思うので、この辺も是非起草委員会でもしっかりと取り組んでいただければと思います。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

ほかにございますか。どうぞ。

佐竹久美子委員

今、菊池委員から出た「基本計画の推進」の部分の「庁内横断的取り組み」というのがございますけれども、ちょっと質問的ですけども、この庁内横断的取組というのがずっとこう大きな課題としてあったように思います。今回こういうふうに掲載したのにあたっては、今までの庁内の横断的というのを、どういった変化を加えた取組になっていこうとするのかちょっとお伺いしておきたいと思います。

大村虔一会長

はい。事務局いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

具体的な内容については現在検討中なんですけれども、ご指摘のとおり前から縦割りの弊害とか横断的な取組ということで非常に求められていたところではありまして、市役所の内部でいきますと、例えば策定本部でありますとか、その関係部局が複数入って実行体制をつくって取り組むということをやっておるのですが、委員からのご指摘にもあったんですけども、情報の共有は図られるんですけども、例えば予算の執行ということを見るとやはりどこか一ヶ所になってしまっていてそこを中心に話が進んでしまって、ほかのところには情報は共有しているけれどもその所属内の役割を果たせないというような実態がまだあるのかなと思っておりまして、例えばある種、組織でございますので、縦にある程度区切られているというところはやむを得ないといいたしましても、これを取り除いていくためにその予算でありますとか、そういったものをそのある程度一つのプロジェクトに対して複数の部局が責任を持てるようにするとか、そういったもののあり方を考えたいと思っておりまして、それを本当は全体的にやっていかなければならないと思うのですが、いろいろな実験の中で進めたいということでパイロットプロジェクトのようなものを指定して、その中で新しい手法の実現を試みるということではどうだろうと、そういったことを今内部で検討しております。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

佐竹久美子委員

はい。

大村虔一会長

ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

大草芳江委員

先ほどから市民力が今回の中核になるということをお話されていたところで、ちょっと若い世代から見たときに直感的に感じたところから一つコメントできればと思います。

先ほどからいろいろと人口減少であったりとか、低成長というところから財政とかそういうところも含めて、市民一人一人が負担が増えるという前提から、市民も今までみたいにこうやってもらう形ではなくて、自律して自分たちが主体となってやっていこうというところが必要だということはすごく認識できますし、そうじゃなきゃいけないと思うんです。とはいえ一方で、やっぱり市民の力がこうありますと文章に書かれても、何か多分言っているだけかなと思ってしまう、何か直感的な部分であるかなと正直思っています。ですから、例えば負担であったりとかそういったところもちろん市民がこれから分担していく必要があると思うんですけれども、逆に自分が直感的に思うのは、その分自分たちで決められる範囲というか、決定権とか、そういう責任を持ってやれるのであれば自分たちでも絶対考えないとまずいことになるし、じゃあ一生懸命に考えようという当事者意識が出てくるのかなと思うんです。今回、その市民力とかそういった部分について具体的に基本計画の方まで踏み込むということでしたので、是非その単に声を聞くとかそういうレベルじゃない、市民が実際に責任をもって何か決めたりして、それが本当にじゃあ行政の中の何かしらの枠組みに本当に反映できるような、そこまで何か踏み込んだ仕組みというものが、今回もしかしたらお考えかもしれないし、もしかしたら本当は今もあるのかもしれないんですけれども、ただ、そういうところがまだ実感がわからないようなところが自分たちの感覚なので、是非そんなところまで踏み込んでできればというのが感じたところです。

大村虔一会長

はい。ありがとうございます。どうぞ。

内田幸雄委員

今の大草委員の話と通ずるところがあるんですけれども、二つです。

一つがこの市民力という便利な言葉を使うことによって、大変申しわけない言い方をしますが、本来行政がやるべき事柄までもあいまいな形で市民力の方にかぶせてこない

ような枠組みのつくり方というのでしょうか、やはりその辺のところのメリハリというのも非常に重要なのかなと思います。

それから、私が副委員長でお手伝いをしております教育振興基本計画で先週金曜日に話し合いがありまして、資料にこの市民力という言葉を使ってきましたら、先ほどからの議論と同じように、この市民力はいったい何を指すのか、育つはぐくむべきものなのか、元々あるものなのかどうなのか、ここにいらっしゃる皆様も多分それぞれの立場からでこの市民力の理解が違ふと思いますので、相当きっちりとした定義づけをしないと、ほかの審議会にも影響を及ぼす重要な言葉になっていくのではないのかなと思いますので、そういう定義の部分と合わせて、本来行政がやるべきことはやるというようなメリハリの付け方をしっかりしておかないと、目で見ても美しく耳で聞いて心地いい言葉は時に非常に危険を伴いますので、しっかり議論をしていけないかなと思います。

大村虔一会長

はい。ありがとうございます。

大変重要なお話が二つ続いていると思います。市民力というのを打ち出せば、それに即した行政力というか行政のシステムというのはどうあるべきかというのをしっかり押さえないといけないということです。それから市民力と言ったならば、市民の意見を反映できる仕掛けがないとなかなか難しいということも含まれてまいります。まずは言葉が先行しているけれどもそれを実体化していく議論が必要だということでございます。がんばりましょう。

ほかにいかがでございましょうか。どうぞ。

石川建治委員

今の大草委員の提案、非常に重要だなと思っていました。

実はほかの都市でも住民自治といいますか、具体的にその自分たちがその負担をしたり能力を提供したりという一方で、自分たちの地域のことは自分たち地域が決めるといった仕組みがほかの土地で始まっています。先日横浜市の泉区でそういう試みが始まっているというのがあったので、ああいったものは非常に仙台市にとってもこれからの地域自治といいますか住民自治を進める上で非常に重要だなと思いました。そのことによって市民の人たちが自分たちで決めたことについて自分たちも責任を負うと、単に税金を納めて後はサービスを受けるだけとか、その意味ではそういう地域自治の仕組みというのをどのようにつくっていくということが、多分これからポイントになってくるんだろうと思ひまして、非常に重要な提携だったと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

いかがですか。どうぞ。

西大立目祥子委員



やはり大村会長が先ほどおっしゃったように、この市民力については推進の形とかそこまで踏み込んだ形でこう書いていかないと、ただ綺麗な耳障りの良い言葉というところに終始してしまうような気がいたします。特に区の区別計画の話も先ほど出ましたけれども、ここで議論しても市役所にいる方たちにとっては、上位に総合計画があって基本構想があって基本計画があってということになるわけですが、暮らす側にとってはやっぱり区別計画というのが目の前のものだと思うんです。ですから特に区の計画については、今は住民自治というと町内会だけですけれども、私が今市民活動している中ではNPOなどが町内会とどうクロスしていったらいい、そこでその地区ならではの形の形をつくり上げられるかという大きな課題になってきますので、推進の中でどの程度書けるかはもちろんあると思うんですけれども、やはり何か形を市民力を担保する形で書き込めればいいかなと思います。

大村虔一会長

はい。ありがとうございます。

ほかに、はい、どうぞ。

菊地昭一委員

市民力について一つだけ。先ほど人口の説明のあったように、市民の力、市民力というのはある意味では奥山市長のうりでもあるんです。そういう意味では市長が選挙に出られていますから、その思いもこの中にかなり入り込んでいると思うんですけれども、逆にその辺について皆様からするとかなり具体的な話を聞きたいみたいな話もあるので、恐らく施政方針の中に出ているものも情報として、皆様みていらっしゃるのかもしれませんが、その辺は情報としてしっかり提供しておいた方がいいのかなと。市民力はある意味ではこの中では一番市長の顔が出ている部分かなと思うので、その辺もしっかり出された方がいいと思います。

大村虔一会長

はい。どうぞ。

鈴木由美委員

私も市民力についてここに記載が重要な部分だと思うのですが、今ここで論じられているその市民力というのは、皆様が思っている、持っているものを今出してこれから仙台市をつくっていくという形で考えられていると思うんですけれども、ただ、今持っているものよりもこれから育てていかなければならない市民力ということも、これから必要になってくるとは思います。やはり若い方々がこれからその自分たちの仙台をどういう形につくって行きたいのかと考えたときに、若い人たちに対する市民力をどうやって養っていくのかということも記載しておかないと、自然に育つものだけを待っていたのでは、これからその自分たちが目指すものをしていくうえで、やはりつくっていくものの素材というか、そのものがきちんとできるためのシステムというか教育というか、そ

ういうものがきちんとあってこそ将来像がきちんと組み立てられていくんじゃないかと思いますので、この市民力という今あるもののほかにやはり市民力を育てるという視点に立った記述も私は入れていただきたいと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。この市民力というか市民が自分たちの将来について、目標を持って行政と一緒に何かをやり、それを勝ち取っていこうとするときに、それぞれの人が自分の目の前で起きていることだけを見ているのではなくて、少なくとも町内のこととか区のこととか、あるいは仙台市全体で起きていることとかを踏まえてものが考えられるとなると、先ほどおっしゃった新しく育った市民力が付いてくるんだろうと思うんです。そのためには情報がもう少し提供されてないといけない。例えば人口の話も、先ほど泉区のお話が出てまいりましたけれども、泉区の人口はこんなふうになりますよという総数だけでは多分なかなか難しく、同じ泉区の中でも例えば将監辺りの住宅地は今人口がどんなふうに動いているのかとか、あるいは泉中央辺りのマンションや何かの人口はどんなふうに変わっているのかとか、細かい情報も見ようと思えば見れる仕組みか何かがあると、市民の判断力か何か大幅に変わっていくような気がします。そういうのは見ようと思っても普段はなかなかわからないですね。いろんな行政的な統計資料や何かを持っているのはお役所の人ですから、お役所の人は大体こう幅広くものを見ているけれども、それはなかなか区民に伝わっていない。区別の計画を本当につくろうとすると大変なことになると思いますが、でもそれをできるだけみんなにわかった上で自分たちのまちづくりについて夢を語っていただく仕組みをつくらないといけないんだと思います。多分こういう計画をつくるこそ、そういう仕組みをつくる本当は絶好のチャンスなんですけど、1年ぐらいの間でみんな決めてしまおうということでもってそんなゆっくりしてられないという部分があります。そういう姿勢を次のステップにつなぐことまで踏まえて、この計画は議論しておく必要があるかなという気はするんです。

皆様の話を聞いていると面白い話がいっぱい出てくるのでワクワクしているんですが、ほかにいかがでございましょうか。どうぞ。

西大立目祥子委員

今のお話に付け加えたいこととして、やはり市民力をはぐくむということも推進を書く中できちんと書き込んでおきたいことだと思います。恐らく本当の意味で市民に最初投げ出したら、投げたらすぐコストも掛かるし手間も掛かるし時間も掛かることだと思うんですけれども、それをやっていかないことには本当の意味での市民力というのは市民の中で育たないと思うんです。それで市民からいえば市民力とお役所がいう以上、やっぱり情報は公開してほしいし、いざというときは力になっていただきたいと思うので、本当の意味でその市民力を実効性のあるものにするためには、市民の側にもお役所の側にも覚悟が必要だと思うんです。この機会にやはりどういう形を取ればそれが可能になるかということまで是非とも私は書いておきたいと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。どうぞ。

針生英一委員

私も企業の人間で今市民活動にかかわっていると、行政のプロジェクトにかかわっているといろいろあるんですけれども、一つはその市の職員の意識として、やっぱり市の職員の方の多くは職員の立場で市民協働とかかわるということなんです。私の場合だと企業人であって地域の人間でもあるので、それはやはり両方のスタンスを持って地域活動にかかわる、その中では企業の持っているリソースをある分では地域につぎ込むということも十分に可能なんです。これは行政の職員の意識として自分はいくまでも行政の立場だ、でも行政の人間なんだけども一市民であるということをあまりよく考えないで行政の立場だけでもものを言うからなかなかそこがうまく融合してこないと思うので、やっぱりその行政の職員も一市民として一緒に知恵を出して汗を流して、そして市民と協働する、住民と協働するというような、やっぱり意識を変えるという部分ではどういう書き方がいいかはわからないですけれども、そういうことをやはり盛り込むべきだろうと思いますし、また企業も、企業という枠の中だけじゃなくて地域と連携をしていく。そして、そういう行政のリソースだとか企業のリソースが地域と連携することによって新しい力が出てくると思います。それをこう分けないでそれを融合するような形での書き方というのが必要なのかなと感じました。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

まだご発言のない方が何人いらっしゃいますので、重点的にできればご発言をいただきたいと思いますが、どなたかまだ意見のない方。はい、どうぞ。

高野秀策委員

先ほどどなたかが言われましたけれども、この10年の計画の前に、今までの10年の計画がどういう計画でどのようにされて来たのか、何ができて何ができなかったのか、その辺の総括、整理をして、もちろん今までの10年とこれからの10年は大変な経済の状況や環境が違っていると思いますけれども、そういった整理をすることが大事じゃないかなと。そして、次なる10年の中でも、最後にありますけれども、1回に10年すべての計画ではなくて3年刻みのような中期計画を、直前の3年間はこういうことだったということで整備、総括をして、次の3年間はじゃあこうしてスタートしよう、というような事がこの計画であっていいのではないのかなと感じました。

大村虔一会長

なるほどですね。その3年ごとの計画は最初のフレームの時でおつくりになる話をしましたよね。

梅内総合計画課長

はい。実施計画ということで、つくってまいります。

大村虔一会長

3本立てになっていて、基本構想、基本計画、実施計画というのでこの全体の枠組みができており、実施計画というのはその3年ごとぐらいで、まあ比較的に見える範囲の中で計画をつくっていくというようなお話をいただきました。

いかがでございましょうか。どうぞ。

樋口稔夫委員

市民力という、私はちょっと町内会関係をやっていますので昔から一つの固まりとしてきてはいるんですけども、最近意識の変化が激しくてまとまりの悪い会もありますし、かなり相当やっている会もあるんです。やっぱりこういう今までできている会もきちとした市民力としての位置づけをもっとすれば、もう少し力が出せると思うんです。今防災とか防犯、安全いろんなものに対して全部首をつっこんでいるのは町内会なんです。これをしっかり生かしていきたくないといいますが、そういう状況だと思うんです。それがこれからもずっと今のままでいくとかえって相反して離れていくという感じになっています、今意識が希薄になっていますから。隣組と仲良くない人が多い時代になってきているのでかなり難しいんです。だけどそういうものをきちとこう市民力として位置づけてやれば相当のものが解決できるケースが多いんです。例えば、市民協働企画事業という市で1年間に50万出して3年間継続してやれる事業があるんですけども、そういうものを本気になってやっているところは相当進んでいるんです。そういうものをPRしながらやっぱりこう50万ぐらいで相当大きな仕事やってくれるんですよ。例えば、草刈りを市でやれば二、三百万掛かるところ50万ぐらいでやってくれるわけですから。そういう力を利用すれば社会勢力のない今の時代にはすごく効果的だと思うんです。そういうものを生かすというのも何か大事なのかなと。何か今さっきから市民力というのあちこちにいっぱいあって今後役立つだろうと言っているけど、実際にずっと継続的にやっていけるNPOとかそういうのをつくれるかというのが一番問題になってくるわけです。熱心な人がいなくなってしまうとさっと消えていくのが結構多いんですよ。だからそういうこともありますので、やはりこう継続できるようなそういう市民力を育てていくということが大事だと思います。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。どうぞ。

水野紀子委員

仙台は元々市民力を育てるのに非常にいいところだと思います。私は、仙台は都会の良さと田舎の良さを両方持っているまちだと昔から思っていました。つまり、田舎の良

さというのは人間関係が暖かいところで、田舎のまちだと封建的なところなんですけど、それがなくてある種の都会的な合理的で近代的な気持ちよさみたいなものを併せ持っているというそういうまちだと思っています。この特性をその田舎の良さと都会の良さを合体させたような市民力というのをつくっていくというのはとても大切だと思うんです。

もし、これを全部行政でやろうと思いますと、そんなの、家庭がバラバラになっているわけですから、昔の近所で子供たちの様子がわかっているとか、あるいはその家の子の様子がどうなっているかが昔はご近所の社会で自然にわかっている、それを行政が代替しようと思えばすさまじい人間がこうみんな見て回られてなくてはならないことになってしまいます。それをその市民お互いのかつ日常で楽しくごあいさつができて様子が自然にわかっているという形で共同体を、コミュニティをつくり上げていくことができれば、そのコミュニティがその市民の生活を守り利便性を上げていくことができるだろうと思います。

ただ、このコミュニティも市民力を生かしましょうという掛け声だけではだめで、具体的にそのどういう形のルールでどういう形の集団でどうやって力を分担していけばいいかという、そういうNPO、あるいは町内会が民主的なものになるんでしたら町内会を基盤としてつくっていてもいいかもしれませんし、あるいは、まったく新しいNPOをつくるのか、つくるのがいいのかもしれないですが、そういうその人間の協力関係を民主的に組み上げていくルールづくりというものを、市の方で策定してモデルとして提案するということが必要だと思います。

それから、そういうボランティアの市民団体で解決できないような凄まじい暴力という深刻な問題もございますので、そういう問題についてはどういう危険があって、そういうときこそ、どういう形で公共が直接かわらなくてはならないかというような、メリハリの利いたルールとガイドラインというようなものを丁寧につくり上げて、そして、市民力を利用していく形を誘導するということまで考えられれば、仙台というまちは潜在的に非常に力のある市民力を持っているまちだと思います。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

ご発言のない方に一つよろしく願いいたします。どうぞ。

江成敬次郎委員

今、市民力についてのいろんな議論を聞かせていただいて、先ほど大村会長がおっしゃったような実体化する議論がこれから必要だと強く感じています。多分市民力を支えにしているんなことをやっていくようになると、そのイメージもかなり違ってくることが出てくるんだろうと思うんです。私も若干NPOにかかわってますけれども、NPOをやり始めて多分10年くらいになるんだろうと思いますけれども、やっぱりいろんな問題が今出てきているというところがあり、そういうことが必ず市民力についても出てくるんだろうと思います。多分この1年ぐらいの審議会の議論の中でとてもまとまる話ではないだろうと思うので、ですから、私はそういう意味では、この10年あるいは少し5年

ぐらいのスパンで、それを踏まえながらはぐくむという、はぐくむというのも何か目標があってはぐくむなんてそんな簡単なものではないだろうと私は感じております。ですから、はぐくむという意味を幅広くとらえて市民力をはぐくむという視点、そして、それを要所要所で検証していくというか、先ほど総括という言葉が出て、私も実は前回の総合計画の策定にかかわって途中で多分何の総括の会議というのもなかったんじゃないかと思うんです。ですからそういう意味では、やはりこれからの総合計画の策定に対しては途中で何らかのチェックをするという機会をつくる必要があるのではないかと思います。先ほどあの途中でということで実施計画3年ごととおっしゃいましたけれども、そういうものとは違ってやっぱり基本構想なり基本計画なりを、やっぱり途中で総括するといいますか、チェックするというシステムがあってもいいのではないかと、そういうことを市民力というまさに新しい視点を出すわけですからそれを10年間ほっとくじゃなくて、要所要所でやっぱりチェックしていくという仕組みがこれからの総合計画の策定あるいはそれを推進していく上では必要なのではないのかとそんな気がしております。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

いかがですか、こちらから指名してもよろしゅうございますか。

それでは足立委員から。

足立千佳子委員

もう皆様おっしゃったことなのでなかなか無いのですが、私は仙台市民といったときに定義がまだ大雑把かなという感じが非常にしています。私はNPOで活動しているのですが、こういうときに必ず企業、団体、NPO等というようなくりにされるのが逆に変な感じがする、それこそその町内会だったりとかあるいは行政の中の入ってこないいろんな組織でおじいちゃん、おばあちゃんの組織とかいろんなものがあるわけで、そういうのをうまくこう吸い上げられるような何かがあったらいいのにという感じがしていて、何かすごくこれスマートで綺麗なんですけれども土臭さが無いというか、俺は関係ないってうちのおじいちゃんだったら思うかなとか、何かそんな感じを思いながら拝見しておりました。

きっと、区別計画というのも、私は今は太白区の市民協働の委員会もやらせていただいているんですけれども、そうするともうずっとやっていることでビジョンは何なのと聞くと、いやもうずっとやっていたからみたいな形になったりとかというのがあるんですけれども、それがちゃんと区別計画あるいは今回の仙台市の基本構想の中の位置づけでこういうことをやるみたいなのが見えてくると、区でやっているような協働事業もつとやりがいがあってアピールもできるんじゃないのかなと感じておりました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは大変恐縮ですが、阿部一彦委員。

阿部一彦委員

先ほどから話題になっている若い人たちの市民力をはぐくむということで、大学という視点からもやっぱり今、多くの学生さんたち、必ずしも仙台に住んでいなかった人たちも仙台に住みながらその中で支え合う仕組みということを学ぶ、まあ仙台に残る人もいれば仙台から出てその種を広げるというか核を広げるというのもあるのかなあと思いながら、何となくそのいわゆる大学生はこの中にどういう役割をするのか。このごろ大学生もボランティアということにすごく関心を持つ学生が多くなっていますし、私たちも今検討している中ではボランティアの中から学ぶということで、サービスラーニングの仕組みについても検討しているところです。でも学生さんというと地域の人たちからはどうせ卒業したらどっかに行く人って思われていたのも事実かなと思いますけれども、学生たちも本当に社会の動きとともに変わってきているようなところもありますので、この若い人たちの市民力を育てる視点というのはすごく大事なことだと思いました。

後は地域の中では、今多分、地域保健福祉計画の策定をなされているんだと思いますけれども、地区社協の方々、連合町内会、町内会の方々とこの連携の中にこの若い学生たちも含めて大学生だけではなくて若い人たちがこうかかわっていくことはすごく大事なことだと思いますし、この目指す中でのソーシャルキャピタルという視点がすごく大事だと思いますけれども、やっぱりその地域で信頼できる人が多い、信頼ということが当たり前になっている地域っていうのが今望まれていることだと思いますので、この中に信頼という言葉もあってもいいのかなと思っています。まあ多分私は障害者福祉、障害者施策推進協議会は来月から再スタートしまして新たなことで障害者保健福祉計画の策定に入りますけれども、これは障害がある市民、障害がない市民というか障害の場合はその地域における不便さということをある意味では認識できる立場にありますので、一緒に考えながら誰もが暮らしやすい地域づくりにつながっていくことが大事なことだと思ひまして、それにしてもやっぱり信頼っていうことは今求められていることでもあるのではないのかって思いながらお聞きしていたところでした。

ということともう一点なんですけれども、今、地域主権改革が言われているところで、この動きの中でどうなっていくのか。参議院では通過したとかという話も聞きますし、この地域主権の中で国がいろんなことを今まで決めてきたことを、市で条例をつくって決めていくという視点というのはどこまで考えていったらいいかなとも思っていますし、そうであればそうであるほど地域の特性であり、地域主権をマイナスで見れば地域格差が大きくなるかなって思いながらも、そこに住んでいる市民がしっかりとした視点を持っていればその格差が広がるものが大変なことかもしれないけれども、仙台は委員の皆様がお話なさっているようにやっぱり仙台だからこそ市民力という所にも到達できるのかなと思ひながら、地域主権改革は一体どうなっていくのかなっていうふうにお聞きした次第でした。

大村虔一会長

はい。ありがとうございました。  
では阿部初子委員。

#### 阿部初子委員

私は働く立場から、あのすごく市民というのはみんな市民の力になり、みんな働いている人も地域に含まれるんだよというところをどう本当に伝え合えるのかなということとをずっと今考えていたのですけれども、やっぱりその働く環境というか働き続けられる環境というの、その大きいものがあると思っています。まあ 10 代から 60 代まで働いているといった連合の中の話ではあるわけなんですけれども、その中では働き続けられる環境づくりというところもすごく大きいし、また働いている人が地域でまた力を発揮できるような環境というの大きいんだろうなあと思いながら今皆様のご意見聞いていたところです。

そんな中で特に女性がなかなか働きにくいという今の状況の中では、男女共同参画の仙台市での見直しというか県も国も策定中だと思うんですけれども、そういったところも含めたものも考え合わせていかなければならないのかなと思ったときに、育成というのも大事だけど共に育ち合えるというか、そういった言葉はどこでも使われているんでしょうけれども、そういったものなんかも入り込めるものが必要なのかなと考えていたところです。

やっぱり働く人があって、社会に共同体をつくっているところもとても大事にしているかないといけないのかなと思ったり、何かうまく表現できませんけれどもそんなところ考えながら皆様のご意見聞いていたところです。

#### 大村虔一会長

はい。ありがとうございます。  
小野田委員。

#### 小野田泰明委員

私は起草委員でしたので今日は皆様のご意見をお伺いしたほうがいいと思っていたのですが、一つ事務局に言いたいのは、起草委員会でかなり議論されたことが資料の中に入っていないので、抽象化されてしまいどうしても仕方がない部分もあるのですが、もうちょっと何か入れてほしかったと、入れてくれればせっかくこれだけの方が集まっている議論がもう少し起草委員会で議論したことの先に進んだのではという気が正直しました。

市民力といったときにそれをどうつくるかという話とか、先ほど針生委員から出ましたコミュニティビジネスの話についてはコストが掛かるんだとか、西大立目委員が繰り返し言っていただきましたけれども、市民力というのはコストの削減ではなくて実際最初はやっぱりコストが掛かるのでそれをこうきっちりやっていくと、それをコミュニティビジネスみたいな経済活動の中に入れ込んで本当に地に足の着いたものにしていかないといけないということはかなり時間を割いて議論をして重要なところだったのに、こ



のスライドの中に入れなければいけないと考えるとどうしてもそうなるかもしれないけれども、少し残念だったという気はします。

それと、起草委員会の時には先ほど柳生委員がおっしゃったように、市民力の話は最初の方にありました。今「仙台の市民力」は3番目になっていますけれども、最初は将来の都市の姿というか都市像の前に位置づけられておりました。位置づけされていたんですけれども、さすがにこれを最初に持ってくるのはちょっと議論が重すぎるし、まだ定義も十分ではないからそのプロセスのところに、それをどうやってつくっていくかという「推進に向けて」とくっつけてその中で明確にしようということだったんです。

でも、何か戦略的には市民力というものをむしろ最初に出して、何かわからないけれどもこれに向かってみんなが議論していくということも、ちょっと難しい言葉で言うとハーバースマスが言う公共圏という、何かわからないもの、公の物事に対してみんなが一生懸命に議論するきっかけになってむしろいいのかなと、それを支える仕組みを行政の方で企業と我々の学とタックを組んでつくっておけば、むしろそういう議論を引き起こすために最初の方に持ってくるというのも一つの戦略ではないかと皆様のお話を伺いながら考えていたところでございます。

大村虔一会長

はい。ありがとうございます。

まだ何人かいらっしゃいますね。菅井委員何かございますか。

菅井邦明委員

もう、特にないです。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

そしたらば、西澤委員いかがですか。

西澤啓文委員

僕が市民力ですごく大事だと思うのは、まもなく20年になるんですけれども僕が町内会長をやらせていただいている中で感じているのは、多分町内会の会長さんや役員の方々が思っているのは、今の町内会って行政の下請け機関であるという意味で非常な大きな負担感を持っている方が多く、そのことによって町内会に参加する方々が減っている、さらに会長をやっていると防犯だ、交通だ、耐震だ、何だかんだとほかのあて職の役職も預けられまして、5月6月というほとんど土日は当然のことで、下手をすると1か月のうち20日以上同じ人たちと顔を合わせて、いろんなそれぞれのあて職の皆様で活動しているというような、何となくそれが今までその市民力の代名詞みたいになっていたような気がします。ですから新たな形でこう市民力というのを考えていただくとするのはそういう意味で僕はすごく大事だと思いますし、「基本計画の推進」の中にある「新たな市民協働のあり方」というのは一番の基本になると思いますので、そういっ

たものをする時の指針というかそういうものが出せるような形になればいいのかなと思っています。

ちょっと、一例を紹介させていただくと、約 10 年くらいなんですけれども、私は立場上 P T A をやっている頃に、仲の瀬橋という橋が二高のところから西公園のところまであるのですが、あそこの子供たちの通学路が凍結しまして 10 センチくらいの氷になってしまいとても子供たちは歩かせられないので、ある金曜日にこれは心配だということで、P T A の方で明日土曜日朝から氷割りをしますと、自分たちの家にある氷割る道具を、学校では揃えられませんのでスコップでも何でもいいから持ってきて氷割りしましょうとお声がけをしましたら、そこを通学路として使っている親御さんはもちろん、そうじゃないその自分の友達が危ない思いをしているということで、ちょっと通らない地区の親御さんたちも金曜日の午後の声がけにもかかわらず 130 人くらいお集まりいただきまして、4 時間くらい一斉に氷割りをして子供たちが歩ける 1 メートルくらいの幅の歩道の氷割りだけだったんですけれどもやったということがあります。その時に思ったのは、その氷というものに対してだったら自分も何かできるという思いが僕はあったんだと思うんです。それで本当は最初 1 時間 2 時間で止めようと思っていたんですけれども、全部終わるまでやろうということで皆様やっていただいたんですが。

僕は、だから今回こういった意味で氷というようなそういう素材を、何となくこう感じてもらえるようなものを、何かその基本計画の方でもいいですから出して行けないのかなと。まあちょっとこれがどういうものか自分の中ではないんですけれども、そういうものがあると多分町内会の方々だけじゃなくて。先ほどお話されていました N P O の方もそうですし、いろんな企業の方でも入ってくるときに、町内会の方って、やっぱり彼らは責任がないじゃないかと思ってしまう部分ってあると思うんです。共通の責任を同じ土俵で持てるようなものも、一方で必要かなと思っておりましたので、何か考えられればなあと思っています。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

はい、どうぞ。

内田幸雄委員

今の西澤委員が言われたように、町内会というのは一生懸命にやってくださっている方々もたくさんいらっしゃいますけれども、また、やらされ感もどこかにありますが、その一方で今 P T A というお話も出ましたが、私も P T A の立場もありますけれども、学校ボランティア、朝の登校時にベスト着て見守ってくれている安全ボランティアは、町内会にかかわっていない人も、真冬の大雪降るときも大雨が降っていても傘をさして積極的に皆様来てくれている、これは象徴的な市民力だと思っています。私は福祉のことも社会福祉士という立場でやってみまして、仙台市の地域包括支援センターのかなりところで高齢者虐待防止ネットワーク構築の研修なんかもさせてもらっていますけれども、それも結局学校ボランティアの人たちと同じネットワークがそのまま高齢者に一

歩目を向けてくれればいいと話しながらやっていて、そういう事に対して非常に積極的に変わってきており、いい形のここだというと市民力みたいになってきているかなと思っています。

何が言いたいのかというと先ほどもいいましたが、市民力をはぐくんでいくという枠組みの中で、子供の時に覚えた自転車の乗り方というのは何十年乗っても乗らなくても久しぶりに乗っても忘れないように、そういう意味で学校ボランティアに象徴されるような方々の市民力が、こう学校単位の中でそうやって見せられていくことによって、子供たちの中にも本当に育っていくんだろうと思っています。そういう意味ではこの総合計画の中にも、例えばというような具体例なんかも示しながら、ミクロの小学校単位の地域それから仙台という全体をとらえたことも地域だと思いますから、なんかその辺の枠組みを少しでも入れていただくことによって、学校ボランティアみたいなものを本当に金を払ってやろうとしたら大変な金が掛かるわけであって、そういったものを市民力でフォローできているというのは最大の力だと思っていますので、こんな具体的なことをちょろちょろと入れていかれることによって、中身のある見えるものになっているのではないのかなとちょっと思うところです。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

それじゃあ、どうぞ。

庭野賀津子委員

私も小野田委員と同じで起草委員をさせていただいておりますので、今日は皆様のご意見を伺いたいと思っております。

今日の資料が前回の起草委員会で出されたものと同じものでございますので、特にこの中の仙台の市民力についてもやはり起草委員会の中でも議論されたわけですが、先ほど委員の皆様から出ましたように人材育成が大事なんではないかということも議論されておりました。私も教育に携わっているものとして、教育といいますか、人材育成にもっと力を入れて、人的資源をさらに育てていくということは大事だと思っておりますし、また近年の教育のキーワードとして生きる力を取り込むということがありますけれども、それもこの行動する市民力に直接つながっていくものと思っておりますので、ここでいう市民というのがやはり子供たちも含めて、それから学都仙台という言葉が使われてきているわけですが、大学で優秀な人材を育成しても東京などほかの地区へ流れていってしまう、流出の状態がまだあるわけですね。その時に仙台に定着する、させられるような方法が取ればと思っております。

それから、仙台市のほかのお仕事もいろいろさせていただいている中で、例えば生活保護世帯の問題とかあるいは障害児、障害者の方の問題であるとか、高齢者の方といったいわゆる社会的弱者の方たちの問題もいろいろ伺わせていただいているわけなのですが、そういった社会的弱者の立場にある方たちにとっては「行動する市民力」という言葉を出されたときに辛いものがあるのではないかと、ちょっと強すぎる言葉と受

け止められるかなと思うんです。日々自分たちが生活するので精一杯な状態のときに、行動する市民と出されると、行動しなければ市民でいられないかというような誤解も生じやすいかなと思っているのですが、そういった弱者の方たちもどう含めて包括した形でこの仙台の市民力を考えるかという視点も必要なのではないかと思っております。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

増田委員、お願いします。

増田聡委員

資料2の3ページですか、将来の都市像の姿(2)というのがありますが、あのこれ全部総合計画で議論する必要が当然出るわけですね。ここにあの子育て・教育・若者など細かいテーマが挙がっていますが、是非このテーマについてこれ以降市民会議のようなものを立ち上げると、それであて職の委員は別にいらないので、NPOでも町内会でもこういうそれぞれの問題に関心がある人は自発的に集まって、そういうものを議論する場をこれからつくっていくという提案が今回出せるのではないかと思います。行政の方も行政としてやりたいけど、これは私たちには手が届きませんというのは届かないと言っていて、その市民力に期待するということもあるとは思いますが、できればそれは何かというのを参加した市民とともに考えていく、そういうのをまあこれからやるということがスタートじゃないかと思います。

同じ様なことは区別計画についても言えて、地域特性は多々あり、山の中の小さな集落から青葉区のまちの中の商店街もあるので、一本の区別計画で書くことはほとんど無理だと思いますので、こういう地域問題やこういう地域特性を持っているところのまちづくりを考えるグループを立ち上げませんか。町内会ベースでもいいかもしれませんし、NPOベースでもいいかもしれませんが、それをもって議論がまとまれば区の実施計画にできる部分は反映していきますというルートを開いていくということで、それで動けなければ残念ながら市民力はそこまでいっていませんでしたということかもしれませんが、もう後半年とか1年とかで基本構想、基本計画をつくっていくということだと、そういう枠、フレームをどう組み込んでいけるかということではないかと思います。

大村虔一会長

ありがとうございました。

では間庭委員、お願いします。

間庭洋委員

この資料2の4ページに「仙台の市民力」とあります。いろいろなことについて書いてあり、その中に「従来型の市民協働にとどまらない新たな枠組みも検討」と書いてあるのですが、私もやっぱり行政側が市民とどうという目線じゃなくて、市民からいう行

政との協働という目線を今回大幅に取り入れていかないといけないんじゃないか、それが市民力につながることはないかなと思います。詳しい例は申し上げませんが私も最近経験した例では、行政との協働モデルで最近代表的なのはやっぱりディスティネーションキャンペーンです。行政がリードをしてＪＲと一緒にあって早くから民間に声がけをしてくださって、我々のやれることやることやりたいこと、それからずっとやっていったら今度は一般の市民県民の方まで参加するようになった、ああいう雇用とかいろんな問題で地域活力とかあるいは地域のいろんな宝や資源に目がいて誇りにつながったとか、そういったものが一つ市民とのあるいは行政との協働モデルではないかと思うんです。こういったことが今回の一つの大きな取り上げるべきことかなと思うので、行政から言われる市民協働というのはやや煙たいと感じるんですが、私ども自身が企業も含めて市民が行政との協働モデルというものをしっかりここで考えて豊かにしていくと、あるいはさっきおっしゃっていたような仕組みその他をつくり上げていくということが大事かなと思います。

大村虔一会長

ありがとうございました。

全体の枠組みにつきまして今皆様からいただいた点を含めて、先ほど事務局によって示された案をベースとして、今後具体的な基本構想・基本計画の案の検討を進めていくということで、またそれを進めていく際には少しもっといくつかの部分について具体的な議論をしたいということで、部会を設置しようという話が次の議題になっているわけですが、そんなことで一応この最初の部分につきましては皆様からご意見を伺ったということにしてよろしゅうございますか。

(はいの声あり)

大村虔一会長

それでは、最初の全体構成の素案についてというところは、以上のことでお伺いしたことにいたしまして、「部会の設置について」でございます。

## (2) 部会の設置について

大村虔一会長

かなり早い時期からもっと細かなことについて部会で議論を進めた方がいいというような意見もございましたが、今回、部会の数や分野などについて事務局の案が出されておりますので、まず、事務局の方からご説明をいただきたいと思います。

梅内総合計画課長

資料３をご覧ください。先ほど資料２の中で分野別計画を二つ、「市民の暮らし」に関する分野と「都市の魅力」に関する分野について体系立てをしていきたいとご説明申し上げましたが、この方向をベースに今後の体系等についてご議論を踏まえて見

直しをしてまいりますけれども、当面この二つの視点に基づきまして体系化を具体的に作業を進めて次回お示してまいりたいと思っております。それに従いまして委員会全体を二つに大きく分けまして、市民の暮らしに関する部会と都市の魅力に関する部会ということで、この二つの部会を設置して各々でご議論いただくようにしたいと考えているところでございます。

あわせて、資料4をご覧ください。事務局でも前回のご議論を踏まえまして例えば市民力のところについて庁内でも議論をしておるところなんです、やはり具体的な書き込みがないとなかなか庁内でも理解が得られないという部分もございまして、少し具体的に書き込みながら庁内でも議論を進めたいと考えておりますので、次回部会までになるべく具体的な記載を、どこまでできるかというところもございまして、進めてまいりたいと考えております。資料4で線が引いてございまして、線の上、5月31日第4回審議会が現在の審議会でございます。この後、部会を設置いたしまして、7月上旬までに先ほどご説明しました人口フレームやグランドデザインなどと合わせまして、市民力についての書き込みでありますとか、各々の部会毎の施策体系を入れたものを準備して部会を開きたいと考えてございます。そして、8月下旬に第5回審議会がございまして、9月議会の前に基本構想・基本計画の中間案をまとめてまいりたいと考えてございます。中間案がまとまりましたら議会にももちろん説明してまいりたいと考えておりますし、あわせて、パブリックコメントと各種の市民意見の反映を図ってまいりたいと考えているところでございます。それを反映させたものを部会等でご議論いただきまして、1月中旬の第7回審議会で一応基本構想・基本計画の方向性といえますか、内容を確定させていきたいと考えているところでございます。

資料は以上でございます。

大村虔一会長

はい。提案は大きく2つのグループに分かれて、少し意見が密度が濃くなるようなディスカッションをしたらどうかということで、それを審議会より密にやることによって成果を上げようという案でございますが、何かご意見ございましたら、お願いいたします。はい、どうぞ。

菅井邦明委員

先ほどお話しなかったんですけれども、今の議論ずっとお聞きしていて、提案は二つの部会ではなくて、中核に「市民力部会」というのをつくったらどうでしょうか。

起草委員会で市民力がかなり煮詰まっているのでしたらいいんですが、先ほどの話からいうと必ずしもそうでなくて、いろんな方がいろんな大事な市民力について、資格から、ルールづくりから、例から出ているので、市民力部会でもって、もちろん事務局も入って、かなめのところをつくらないとこの上の位置にいる、どうなるかは知りませんが、何かやってもかなめがないとまた同じではないのかなと思ったんですけれども、どうですか。

大村虔一会長

事務局何かございますか。

山内企画調整局長

そういった点については、起草委員会の方でもいろいろご議論いただいている中で、この資料に十分反映させていなくて本当に申しわけなかったと思うんですけども、部会としては基本的に施策分野の見える二つの部会にさせていただいて、市民力のところは起草委員会でさらに議論するという形にさせていただければと思います。三つに分けるとなると、その辺の三つに分けた構成自体の分け方がちょっと難しいかなと思いました。

大村虔一会長

なるほど、起草委員会そのものは、これまでの仕事とは別な形でまたさらに次の作業があると考えてもよろしいでしょうか。

梅内総合計画課長

はい。例えば資料4の方に、例えば7月下旬に第6回起草委員会を予定をしておるところですけども、基本構想自体もこれまで随分ご議論が進んでまいりましたけれども、内容を確定させていくとともに今回の基本構想の肝といいますか、それが今までご議論のあった市民力の部分でもありますので、その推進も絡めて基本構想と一緒に起草委員会にその辺の考え方をお示しできればと思っておりますし、また、各々の考え方については部会の方にも当然お知らせして、そちらの方でご意見あればそれをまた起草委員会にフィードバックするということをしてまいりたいと思っております。

大村虔一会長

はい、今の話だと起草委員会は残っていて、先ほどの小野田委員の話では、議論されたことがこの今日のペーパーにあんまり反映されていない部分もあるということなので、少しこれはゆだねて。

小野田泰明委員

いや、事務局の責任にした訳ではなく、今岡本委員と話したんですけども、市民力は何かと定義すべきものではなくて、その市民力が何かということで一つ一つのケーススタディをエンフォースメントして実際にケースとして知らせて、それをまた回収してフィードバックする、そういう経験の蓄積が市民力とは結局こういうものだったのではないだろうかという事を自明にするのではないかと、という論理的なモデルについてディスカッションしたのです。しかしながら、それは論理的にはかなり正しいと思うのですが、行政文書に書き下すには余りにも複雑で、皆様の理解を得られにくいというところで、事務局が格闘して、書かれてないじゃないかと言いましたが、まあこういう形でしか書き得ないということになっているんですね。僕は、何で書けないかというのは何となくわかった上で、何か言ってくださいということでは思わず言ってしまったんですけど

ども。

大村虔一会長

だからこの中で市民力と言ったときに、市民によく伝わらなければいけませんよね。

小野田泰明委員

伝わらなければいけないというか、市民力って俺はこう思うとか、俺は市民力はこうだっていうふうに、この市民力というのは活性化する鍵だと思うんです。でも、行政が言葉を示すときには、それはどういう意味かを決めてないのに使っているのかと必ず言われるから、何か決めないといけませんけれど、基本的には謎であって、それが個人個人の個性なり活力を奮い立たせるインセンティブになるのではないかというのがずっと起草委員会をやっていた我々の感触なんですけれども。

菅井邦明委員

今のは、そういう説明でわかる人はわかりますが、一般に、そういうのでこれが市民力なのかとずっと読んでいってわかることができるかどうか。

小野田泰明委員

だから、別にきちんと広報部会で説明の論理を立てましようと言っているんです。

それともう一つ、制度設計にはやっぱりある種のクールさは必要だと僕は思います。制度設計までみんなにわかるようにという平たい制度設計をしてしまっただけでは、とてもこれは困難な時代を渡ることは絶対にできません。だから、ダブルスタンダードで制度設計はかなりがんばりますけど、それを一般の人にもいかにわかりやすくきちんと伝えてそれを吸い上げる仕組みを明確につくるかという、その二つで広報計画をこういうふうに考えますということを資料5で…。

大村虔一会長

まだ今は広報計画のところまでいっていないのですけれども、そうすると部会の話と、市民の参画システムをどうするかという話がこの後にもう一つ残っているわけですが、その中で部会をこの二つにしながらでも、新たにもう一つ部会をつくらなくても進むのではないかという話として、今のその起草委員会のようなものが議論してきたものをまとめたり何かすることでやれるのではないか、という話を僕はしようとしたんですね。

どうぞ。

大滝精一委員

先ほどお話があったように、一つは起草委員会の中でいろんな議論を、市民力についてやってきていることがあると思うんですけれども、今回提案があるその部会を二つに分けるということで、実はこの二つとも市民力というのは絡んでいるんです。だから、市民力というのを別に取り出してそこだけ議論するというのは、それはそれで価値のあ



ることかもしれないんですけども、むしろ、それぞれのテリトリーというか分野の中でもうちょっとこう市民力の話をその中に入れていただいた上でもう一回集まって、この全体の案をまとめていくときに、こういうところから見た市民力とか、こういうところから見た市民力っていろいろあって私はいいんじゃないかと思っているんです。それでももちろん最終的にはどこかで市民力というものを明らかな形にしていくことは必要であると思いますけれども、多分皆様が今日議論していた市民力というのは、もっと本質的に、しかも、今回の総合計画の目玉のようなものとして位置づけていこうということである以上は、そういう議論を一回ちゃんとした上である種の問題とか課題とかと結びつけた市民力とは何かとか、そのときにじゃあ市民はどうやって動いたらいいとか、それをサポートしたりそれを実際に行政の力とかお金に結びつけていくということをするときには何をしたらいいとかという議論を一回やった上で、もう一回戻ってきて市民力の議論をこの審議会なり何なりでしていく。起草委員会でも多分それを一回やらないといけないと思っているんですけども、そういうステップを踏んだ方が、多分その市民力だけを分けて出すとある意味抽象的な所にどんどんいってしまうという危険性があるので、そうしない方が私はいいんじゃないかと思っています。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

菅井邦明委員

私も実はこの二つの中で今の作業の中にそれを入れてくれていれば、大丈夫かなとは思っています。ですから今の案で結構です。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

ほかに何かご意見ございましたら。よろしゅうございますか。

それでは、事務局の案のとおり、一応二つの部会として今言った市民力の議論などもその中で少し意識をしながらご検討いただくということにさせていただきたいと思います。部会の分け方とか人数のバランスとかはどういたしますか。

梅内総合計画課長

各委員の皆様からご希望をとり、割り振りしまして、最終的に人数のバランスなど見まして会長と相談いたしまして決定して、各委員の皆様にご通知申し上げたいと思っております。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。それでは最終的な決定は後ほど事務局から文書でご通知をさせていただくということにさせていただきたいと思います。

(3) 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について

大村虔一会長

それでは随分時間が遅れているんですがございますが、3点目として、「新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について」ということでございます。事務局の方からの説明をお願いします。

梅内総合計画課長

資料5をご覧ください。「新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について」ということでございます。ご案内のとおり、新総合計画策定に向けて各種団体でありますとか、市民の皆様のご意見をどう反映させていくかというのが非常に重要なところでございます。昨年まで取り組んできたところにつきましては、第1回審議会などでもお示したところではございますが、今回、資料5の参考資料ということで、内容が膨大でございますので各項目につきまして2ページずつにまとめたものをご用意させていただいております。これらの意見を今後の体系化のところで各局と一緒にどういうところを、どういうところに反映させていくかということを考えていく予定でございます。

これに、これから予定する市民参画事業・広報ということでございますが、今後中間案というものがまとまってまいりますことになりましたけれども、そういうものができて始めて市民の皆様も個別の施策とか事業そういったものに応じて、ご意見を言っていただけるようになるのかなというところもございまして、今後市民の皆様から広くご意見をいただいてまいりたいと思っております。

2 - (A) というところでシンポジウムでございますが、中間案ができたところでこれを市民の皆様にご説明しながら、例えば審議会の委員の先生と市民の皆様との意見交換を行う場を設定してはどうかと考えてございまして、二つの部会でございますので、各一回ということで10月頃を目途にこういったシンポジウムを開催してはどうかと考えてございます。

(B) でございますが、このほかに希望者を募りましてグループに分け、各種の現場(フィールド)をまわって実際に課題になっている点のヒアリングや体験をしていただいて、ワークショップを行うということを考えております。これについても8月から9月について行ってまいりたいと考えております。

現在、区別計画の策定ということで、先ほど泉区の方のお話ございましたけれども、各区の方で区民の皆様、地域の皆様のご意見を聞いているところでございますけれども、中間案がまとまり区別計画の方向性が出たところでその内容につきまして改めて各区複数回、区長あるいは市長が参加する中でご説明し、区民の皆様との意見交換を行ってまいりたいと考えてございます。

また、パブリックコメントということで、ホームページや文章を使いまして市民の皆様から意見を募集することを行ってまいります。

このほか、これまで市政と関係のある各種の団体や有職者の皆様からご意見をいただいておりますので、中間案がまとまりましたというご報告とともにそれぞれの立場からご意見があればこれをいただければと思ってございまして、これを郵送でご意見をいた

だくような場を設けたいと思っています。

このほか、毎月の市政だよりにつきまして裏表紙を基本的には総合計画策定関係ということで、毎月これにあててまいりたいと考えているところでございます。時期としては7月から3月まで広報し、4月には固まった内容で特集を組みたいと思っております。このほかに、テレビでの市政広報番組などの広報も行ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

大村虔一会長

はい。ありがとうございます。

先ほど増田委員の言った意見はこの中のどういう感じになるのだろうか。(A)、(B)ぐらいで。

増田聡委員

イメージとしては(B)ですが、でも9月で終わらないほうがいいんじゃないでしょうか。

梅内総合計画課長

先ほどの意見に合致しているかどうかというのはあるんですが、お話ありましたように区別計画でありますとか基本計画が策定になりまして議会で議決をいただくわけでございますけれども、策定がなってそれから具体的にどのような地域政策を展開していくかということが肝要でございますので、今、市民局や各区の方とともに計画策定するまでに大きな方向性みたいものを打ち出して、来年度以降実際それをどのように展開していくかということを考えてございますので、その中で先ほど先生の方からご指摘あったようなことを実際トライアルアンドエラーという、エラーはしてはいけないのかもしれないですけども、そういった形でやってまいりたいと考えております。

大村虔一会長

もう少し長期的に、この作成は一段落して、その後にももう少しつなげていくというぐらいな感じですね。

梅内総合計画課長

時間が限られた中での計画策定でございますので、大きな方向性をやはりこの総合計画の中でお示ししまして、その後具体的なところでやっていかないといけないのかなと思っているところでございます。

大村虔一会長

いかがでしょうか。この策定期間中にできるだけのことをして、そしてとてもこの市民参画によって議論することはそう簡単にはいかないの、それはもう少し長期の問題

としてその第一歩をこの計画の中で見い出していくぐらいの位置づけにする。増田委員の発言のようなことをやればいいなと思ったけれど、長期的に考えるとそういうことをやるということですかね。

何か意見ございますか。

時間も限られていて議会との対応などもありますから、そう時間を掛けるわけにもいかない部分もありますよね。

特になければ、今の事務局の説明のような形で、その本来の市民参画事業というものあるべき姿を探りつつ、その第一歩をここで実現していくというようなやり方でよろしゅうございますか。どうぞ。

増田聡委員

(D)のパブリックコメントですが、中央官庁がやっているように、ホームページに掲載し概要だけホームページの上にあがるというのではあんまりな気がするんですけど、これに対して意見を言いたい方は公の場で言える、そういう場面は特にはつくらないんですか。シンポジウムに出てきてくださいということですか。

大村虔一会長

なるほど、一緒にする。

増田聡委員

いや、一緒になくてもいいかもしれませんが、今、何かネットの上で意見がやり取りされてますねというのではあんまり、なかなか見に行かない人にとっては意見が上でいったりきたりしているだけという形になるような気がします。

梅内総合計画課長

確かに、どのぐらいのボリュームでできるのかというところがあるのですが、おっしゃるようにシンポジウムの場面か、この場でいきますと区別意見交換会に説明を入れる予定でございますので、こちらの方でご意見がある程度出てくるのかなと思ってございます。十分かどうかというところはあろうかと思いますが、時間的な制約も考えてこういった中でご意見を伺えればと思っていますところでございます。

増田聡委員

後はコストも掛かりますが、事業仕分けのネットの中継を見られた方は、向こうが乗ってくれるとかなり応援してくれるんですけど、そういう話はあり得るのでしょうか。

大村虔一会長

少なくとも、ここに書いてあるものだけでも相当忙しそうではあるけれども、しかし形ばかりやったということではなくて、本当に良い形で参画したりあるいは公募したりということができるということで、何か改善の余地があればしたい気持ちもあるけれ

ど、どうですかね。増田委員の今の意見。

増田委員

持ち出しでやるのは、しんどいと思いますが。

白川総合政策部参事

以前からこの審議会も実際には公開になっているんですけども、なかなか皆様にお出でいただけないというご指摘をいただいています、例えば部会ですとか審議会の場面ももう少し、例えばメディアテークの一階でやるとか、具体的に市民の方によりいらしていただきやすい環境をつくるとか、その場で気づいたことやご意見を出していただけたとか、意見を言うところまではなかなかできなくても紙に書いておいていただけたとか、また楽しいところやもうちょっと明るい所でやればマスコミの方にも来ていただけるかもしれませんし、なかなかこの庁舎の中でこういう形でお話をしていてもテレビ写りとしてなかなか対応していただけないような場合もありますので、工夫の仕方を取り上げていただければまたそこで興味を引くということもありますし、できる範囲のそういった工夫をしてみたいと考えているところでございます。

大村虔一会長

はい。今の意見でどうですか。もう少しいろいろ工夫をしていただきながら基本の筋は事務局の案に沿って、この審議会の持ち方だとか外に向かったの開き方だとかそういうことについては、少しご工夫をいただくということではいかがですか。

(はいの声あり)

大村虔一会長

そうですね。時間が過ぎてしまっても大変申しわけないのですが、このぐらいでそろそろ終わりにしたいと思っておりますが、この広報とそれから我々のやっている作業がうまく伝わるようにいろいろご検討お願いしたいと思います。

#### (4) その他

大村虔一会長

最後にその他でございますけれども、事務局から資料が出されてございますので、これについての説明を簡単をお願いしたいと思います。

梅内総合計画課長

資料6でございますが、総合計画の改定に合わせまして市役所内部の各種計画の改定がなされます。前からこういった計画の改定が予定されているのかというようなご質問がありましたので、簡単に一枚にまとめたものでございます。これは主なものでございまして、こういったものにつきましては先ほどのパブリックコメント等の市民意見聴取

を予定している計画改定でございます。このほかにも改定されるものがありますので、そういう意味では総合計画に合わせまして市の主要な計画の大半が改定をされている状況でございます。先ほどお話ありましたようにそこでもいろいろな所で市民力ということが課題になっているところでございますので、総合計画の中でも早めにそういったところを基礎的な考え方についてお示しできればと考えているところでございます。

以上でございます。

大村虔一会長

はい。この辺の話は前回増田委員からこういうのはどうなっているのかご質問があった部分だと思いますが、こういうものが動いていると。今のこういうものに基本構想、基本計画としてしっかり重要な部分は押しこんでいく必要があるんだろうと思っておりますが、この説明につきましては何かご質問ございますか。

何かありましたら事務局の方にお問い合わせいただくことにいたしましょう。

そのほか、皆様から何かその他というテーマでございますでしょうか。特になければ以上で本日の会議は終了ということにしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(大草委員からサイエンスデイ(催し)についてのご紹介)

### 3 閉会

大村虔一会長

以上をもちまして本日の審議会を終了したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。